

活動名：第7回福島空港公園杯少年フットサル大会

日 程：平成25年10月19日（土）～20日（日）

会 場：福島空港公園緑のスポーツエリア（フットサルコート）

内 容：16チームによるU-12フットサル

参 加：トップ5・6・Gクラス 25名

帯 同：小松・熊坂・伊坂・佐藤・渡邊・安藤コーチ

報 告：伊坂コーチ

参 加：ガールズチーム（Gクラス）

結 果：第13位（16チーム参加）

対戦相手：予選 ○喜多方東 ●富田 ●小野

順位 ●AllezT6A ○猪苗代U10 ●常葉

今回の空港フットサル大会私はF C A l l e z ガールズ（以下：ガールズ）を帯同する機会に恵まれましたのでガールズの戦いと共に振り返ってみたいと思います。

大会は10月の土日19日20日、2日間で開催しました。この大会は毎年設楽コーチの勤める都市公園緑化協会と須賀川空港公園が開催する大会でもありピバキッズ、アーレも協力が入るため言わば自前の冠大会です。今年も様々な飲食ブースが出てお祭り大会を盛り上げチーム登録選手にはくじ引きが付いてくる10月の秋真っ盛りサッカー日和を満喫する2日間となるべき日でしたが～初日は何とかお天気はもちましたが2日目は開始そこそこに雨が降り午後には警報が出るほど降り注ぎある意味予定通り？と言えば？予定通りの大会となりました。

そう皆様ならこのある意味予定通りは御理解して頂けるはずです～合宿に大会と本当に雨には苦しめられてます。合宿は台風!でした。

そんな中でも選手は沢山の応援に恵まれ本当に幸せです。

朝早くから保護者の皆様には選手の送迎からお弁当、そして雨風厳しい寒い中での応援、その愛情は私達コーチにまで届いてました。本当にありがたいです。

渡辺ももちゃんのお父様には2日目の厳しい雨にテントからベンチまで選手には分け隔てなく沢山の愛情をもらいました。ありがとうございます。ガールズに取ってそこは専用のお茶会の場となり本当に楽しかったようです。

そんなアーレの大会運営でした。

さてガールズの戦いはと言いますと～

まずガールズの特徴としてガールズならではのまとまりがあるという点を触れなければなりません。このまとまりの雰囲気は男子のまとまりの戦う雰囲気とは別ものであると言う事です。これは先ほどのガールズお茶会と言う表現で察しがつく事でしょう。この点は弱

点にもなり強みにもなる点であります。

もっと言えばある意味切り替えがはやく直ぐに友達モード、逆にこの友達モードが尾を引いて戦う気持ちになれない、何事もフレンドリーモードで消化してしまうと言う事です。

そもそもこれは根本的な性別の違いなのでしょう。

基本的にはいついかなる時もフレンドリーモード。アップからスイッチを探し、試合バリバリ本気モードにすると言う事は至難の技でした。アップの様々な負荷に対しても己と闘わず手を抜く始末です。手を変え品を変えますが～伝わっているんだかないんだかなかなか思うようなエンジンは掛かりません。

それでも試合ではギリギリあきらめずボールにアタックする事が出来ました。

戦いとしてはもちろん全員出場、キーパーは選手全員で決める事、などをチームルール掲げて。

それに私は最初にこんな問いかけをしていました。

まずはチームとして勝ちに行く戦いをするのか～いつも通りそこに執着せずフレンドリーモードで戦う事とするのか???そして大切なキャプテンを決めほしいと。

特に6年生選手には今年でこの大会出場が最後である事を強く強調して。

結果は勝負にこだわり勝ちたいと言う言葉をキャプテンから貰いました。もちろんこれは、ギリギリのところで選手采配に私が強制的に入ると言う事を意味しており実際は自分ではやりたくない選手がキーパーと言う大役をこなしたりキーパーを希望した選手が前半で切り替わったりする事を意味します。

ここでキャプテンは大竹理央ちゃんに決まりました。

理央ちゃんもキャプテンシーをうまく発揮して見事にチームをまとめていました。特にアップの時間前に選手で2列になりランニングしていたのは驚きと感動しました。ただし6年生キャプテンとして私からの要求はかなりハードルを上げたものとなりました。そこでチームミーティングの時に引き出しがいっぱいになり涙しましたが～私は彼女の勝ち気に部分にかけて見事彼女は答えてくれました。

日頃あまりディフェンシブに入らない彼女ですがこの大会は入ってくれてました。あまりに気持ちが入ってしまいチームに必要な一言が出たのも事実です。この課題も出て来ました。最後の最後でのディフェンスは体をぶつけにくい事です。この部分にも逃げが出てました。

女子で気持ちはわかりますが次回は戦ってくれると信じています。

戦いとしては2日間で6試合、1日3試合して2勝4敗でした。良い意味でも悪い意味でも結果だけ見れば4敗、まだまだ感は漂ってしまうところですがところがどうでしょう。

数字以上の戦いして対戦相手すべてを苦しめました。

確かにフレンドリーモードにもなるのですが～。

サッカーは基本的に走るスポーツ、ボールを蹴るスポーツです。

現時点で蹴るは男女の差が出ますが走るは差があまり付かずかなり埋められる部分です。

速さではなく走り、走り、走り切ると言う事です。

幸いこの走りにはスピードとやり切るという強い気持ちを兼ね備えた柳沼董ちゃんが居た事がチームに大変大きな存在となってくれチームを引っ張ってくれました。

彼女は走って、走って、走り回りました。対戦相手が思いっきり至近距離で蹴ったボールが顔面に当たって倒れても涙ひとつみせず直ぐ立ち上がり走ってシュートを打ちゴールを決めました。彼女のその頑張りにチームは沢山のあきらめない気持ちをもらいました。

それに初日初戦は勝利発進で結果にも恵まれました。これが勝利の美酒となり勝つ嬉しさや楽しさを体感しました。

大会でこの体験はやれば出来る事を描く大事な原動力となりました。

この原動力を手に入れたチームはたとえ点数で離されようとも貪欲にボールを追いかけ走り走り走り回り2日目も1勝を上げる事が出来ました。

戦ったチームのコーチの談話は、何だか勝った気がしない、このチームはいいサッカーをやっていたね、点数は取ったけど負けるかと思った、なかなか折れない女の子の頑張り抜くチームだね、など沢山の感動をまわりの大人に与える事が出来ました。

勝負には負けてますけどサッカーでは勝ったと言う事でしょう。

時には試合中ピッチからアウトすると直ぐ涙してしまう選手も居ました。渡辺ももちゃんと渡部綾乃ちゃんです。彼女達2人も本当に出来る限り戦いました。そんな中でも試合にのまれてしまい自分自身に納得出来なかったのでしょうか。この涙は私の気持ちを強く揺さぶりました。彼女達は絶対うまくなると~そんな悔し涙でした。この純粹さは男子チームに伝えなければならぬひとつだと思います。

安藤桃美ちゃんは試合終了と同時の涙でした。試合中は食い入るような鋭い目で戦況を見つめていましたが終了のホイッスルと同時に自分の不甲斐なさ、悔しさに身を包まれたのでしょうか。この涙もただの勝ち負けでは得る事の出来ない涙です。

曾我夏樹ちゃんはそのようなチームの潤滑油となりいろいろな笑いを届けてくれました。戦ってくれば董ちゃんに負けず劣らず素晴らしい走力とスピード、キック力と才能があります。この片鱗は見せてくれるのですが試合中長続きしません。このスイッチ、押し続けられる選手に成長してほしいと願いを込めて書きました。

そして小松夏海。彼女は私の一言で強制的に何度もキーパーの大役を引き受けてくれました。幸いに弾丸シュートはありませんでしたがシュートはシュート。男子が蹴るシュートです。怖い気持ちもあった事でしょう。シュートも入れられていましたが果敢にそれなりにはじき出し相手に流れたゲームをこちらに引き戻すキッカケとなっていました。まだ4年生です。楽しみながらのプレーが印象的でした。

そして姉の小松千帆海。守りの要となり男子のボールをカットしてくれてました。しかしカットが小さく相手攻撃がそこで終わらなかつたりドリブルフェイントも遅くかわせない場面もありました。守りの要と言え課題も多く見つかりました。

戦ったら戦っただけチーム力が上がり人としての成長も感じられ非常に素晴らしいガール

ズだと思います。

ただし私もかなり色を出したコーチングである事も確かです。私のコーチングで様々な弊害が出てしまうようでしたら考えものです。ゲームやサッカーは選手ものです。それは紛れもない事実です。

そこを紳士に受け止めまた様々な指導にあたって行きたいと思います。

それからバックアップの安藤コーチ。本当にありがとうございました。2人でのガールズ楽しかったです。

最後に私1人でガールズにこのような高評価を頂いた訳ではありません。それこそ保護者の皆様、選手のまわりの大人の方々、沢山のコーチの方々のお陰であります。これからもガールズには沢山のお力添えどうぞ宜しくお願い致します。

大会にあたり空港スタッフ、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

小松コーチ

